

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><教育課程></p> <p>(1)多様で柔軟な教育の展開を図るために、魅力的な教育課程と体験的な学習機会の拡大を行う。</p> <p>(2)いのちの尊重に関する教育や人権教育を様々な場面で展開する。</p>	<p>(1) 教職員の共通理解のもと教育課程をより効果的に運用する。より学習効果の上がる教育課程の検討を行い、新たな教育課程を作成する。探求活動を主体とした「総合的な学習の時間」の指導内容を充実させる。高大連携・社会人聴講生の継続的な運用・活用を図る。専門コースを主体としたスペシャリスト人材育成を継続し一般コースへの芸術教育の波及を図る。</p> <p>(2) 校内組織体制を充実させ、いのちの尊重プロジェクトチームと各教科等の連携を図る。各教科等でいのちや人権の尊重を意識した教育活動を展開する。</p>	<p>(1)学校設定科目を含めて、教育課程の選択科目で進路実現に向けて学習効果が上がる推奨パターンが提示できたか。新たな教育課程を作成できたか。また、授業以外の学習活動をどこまで生徒に推奨できたか。(生徒への指導の状況)</p> <p>(2)様々な校内組織が連携して、いのちや人権の尊重を意識した教育活動ができたか。(教育活動の実施状況)</p>	<p>(1) 3年選択科目については、学年の職員中心に推奨パターンを検討し、生徒に提示できた。基礎学力がさらに身に付くことを目的に、新たな教育課程を作成し、来年度から実施する。「課題研究」を主体とした総合的学習の時間の取組みにより、生徒の課題解決能力の育成が図られている。高大連携は受講応募者がなかった。社会人聴講生は美術陶芸コースの授業で募集したが応募がなかった。専門コース主体のスペシャリスト人材育成は継続して特別講座等が行えた。</p> <p>(2) 「いのち尊重プロジェクトチーム」を中心に、研修会等を企画し実施した。各教科でいのちの尊重をテーマとした公開授業を実施した。</p>	<p>(1) 新教育課程を実施していく中で、生徒の様々な進路希望実現に向けた選択科目の設定と推奨パターンの作成が必要となる。高大連携の周知と希望者が受講しやすいような環境の整備の検討。昨年と同様に、専門コースの特別講座等へ一般コースの生徒が参加できるような体制作りの検討が必要。</p> <p>(2) いのちや人権の尊重を常に意識した教育活動を、全職員が取組む必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組みの内容が保護者にあまり伝わっていない。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的手立てに則り学習効果をあげる奨励パターン提示や「いのちの尊重PT」を中心とした研修会の実施、公開授業の実施など組織的な取組みが進んでいる。今後はそれぞれの取組みがより職員全体に意識化され実効性が高まることが求められる。 高大連携については充実を期待したい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年選択科目の推奨パターン・新教育課程、どちらも十分に検討して作成することができた。高大連携や社会人聴講生などの外部機関との連携や校外への発信が不十分であった。また、いのちの尊重をテーマとした研修会、生徒への講習会が実施でき、生徒の意識の変化がみられた。 <p>(改善方策等)</p> <p>(1) より多くの生徒の学習意欲を満足させ、進路希望を実現できる選択科目の推奨パターンをさらに検討する。三者面談週間や学年単位での保護者対象進路説明会の場を借りて、学校としての取組み状況を保護者へ発信していく。高大連携については、内容の紹介を適切な時期に実施できるようにしたい。</p> <p>(2) いのちや人権の尊重を意識した教育活動に日常的に取り組む。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><生徒指導・支援></p> <p>(1) 生徒会行事等における自主的、主体的な生徒活動を促進する。</p> <p>(2) 部活動をさらに活発化するとともに、安全点検・環境改善活動を充実させる。</p> <p>(3) 生徒相談体制を充実させる。</p>	<p>(1) 体育祭、翔矢祭、球技大会などの行事について、話し合いなどによる生徒会本部と各委員会との連携を深め、生徒の自主的な活動を促す。</p> <p>生徒の達成感につなげるため、各委員会において生徒の主体的な活動を促す。</p> <p>(2) 増加した部活動加入率の維持及び活動の活発化に向けて、ホームページやメールシステム、地元メディアなどを活用して、活動状況を周知する機会を増やし、部員の意識を高める。</p> <p>部活動における指導体制の充実と安全の確保を図るため、月1回の部活動調査を工夫し、各部の活動実態の把握に努める。また、部活動における安全点検の時期や方法を見直し、未然の事故防止へ体制を整えるとともに、各部の部員在籍状況に応じて部室の再配置などを行い、日常の環境整備に努める。</p> <p>(3) 生徒相談体制の充実のため、生徒相談連絡会の活用などにより、学級担任や学年団、他グループとの連携を深め、学校生活で困っている状況にある生徒の存在を集約し、情報の共有化を図る。</p>	<p>(1) 生徒会本部と各委員会執行部との意思疎通を図る機会を設けることができたか。各委員会の生徒参加状況に改善が見られたか。(活動状況)</p> <p>(2) 部活動加入率を維持できたか。(部活動の加入状況) 活動状況を周知する機会が増えたか。部活動調査の様式を改善できたか。調査結果を有効に活用できたか。安全点検の結果を施設改善などに反映できたか。部室の環境改善につながったか。(改善結果)</p> <p>(3) 困っている状況にある生徒の把握が拡大したか。(共有化の状況)</p>	<p>(1) 体育祭の異装問題や、翔矢祭のイベントなど、生徒会本部が各担当生徒と緊密に話し合いを持つことにより、生徒が主体的に物事にあたる機会が増えた。また、生徒会本部が委員会に対して問題提起を行うなど、委員会活動の活発化につなげることができた。</p> <p>(2) ホームページなどメディアの活用、従来からの新入生への紹介・勧誘活動などにより、加入状況を維持することができた。また、部活動調査の工夫によりその結果を活用することにつながった。また、各施設の状況を把握し、改善を行った。</p> <p>(3) 教育相談連絡会を週1回開催することにより、個別の生徒だけでなく、全体の傾向など、情報共有をより進めることができた。また、「配慮を要する生徒」の把握方法の改善を行い、より活用しやすい情報とすることができた。</p>	<p>(1) 各行事等で話し合いに時間をかけた分、全体に対応が遅めになってしまったため、次年度以降はその分を見越した早めの進行が必要である。</p> <p>(2) 部活動加入率が維持できている一方で、年度後半で退部する生徒も多く、長く続けられる、あるいは退部後、他の部に参加しやすい体制を考えていく必要がある。</p> <p>(3) 各教員が、自分が普段接する生徒の「困っている状況」をより把握しやすくする方法の検討が必要である。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事は自主的に行われていると思う。部活動加入率はあると思うと工夫されていると思うが、入りたい部活動がない場合もあるのではないか。 ・生徒相談について、自分から相談に行かない生徒をどうやっていこうかが課題と思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や授業規律の確立、頭髪・服装指導などは学校として統一した基準のもとに継続的にお願いしたい。ただし、表面的な指導に終始することなく、生徒の相談活動やカウンセリング体制なども充実を図ることがより重要と思われる。 ・痴漢の被害が多いことに驚いている。 ・自転車通学の生徒が下校時に交通違反をしている様子が多く見られる。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動全般において、生徒の自主的、主体的活動の充実につながっていると考える。部活動については、概ね活発な状況が維持されていると評価できる。 ・教育相談について、自分から積極的に相談に行かない生徒についても、担任や教科担当、部活動顧問などからの情報や保健室への来室時の様子などから、適切な声かけができるようになってきていると考える。 ・頭髪・服装・遅刻指導は学年毎に統一した指導ができた。 ・防犯意識を高めるために全校集会・LHRにて継続的に注意喚起した。 ・授業規律はある程度、守られている。 <p>(改善方策等)</p> <p>(1) 各行事等において、関係生徒との話し合いの機会を早めに持つことにより、生徒の主体的なかかわりをより進めていく。</p> <p>(2) 部活動の新設は困難な状況にあるが、年度途中の部活動紹介の機会を設けるなど、新規加入や再加入を促す方策を講じてゆく。</p> <p>(3) 教育相談連絡会の機能を生かし、各担任や学年団との連携を強化することにより、「困っている」生徒の把握やケアを充実させてゆく。</p> <p>(4) 頭髪・服装違反生徒に対する再登校指導の基準を統一する。</p> <p>(5) 交通ルールの遵守・防犯意識の向上に向け、継続的な注意喚起及び徹底的な指導が必要である。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><生徒指導・支援></p> <p>(4) 基本的な生活習慣を育み、生徒の自立を支援する。</p> <p>(5) 交通安全意識及び防犯意識の向上に努める。</p>	<p>(4) 基本的な生活習慣の確立のため、遅刻指導の計画を立案し、定期的を実施する。 授業規律の遵守を図り、授業を受ける姿勢について、授業担当より日々、注意を喚起する。 頭髪、服装指導を徹底する。</p> <p>(5) 自転車安全教室、全校集会、通学路指導等を実施し、交通安全意識の向上及び交通ルールの遵守を徹底する。 防犯意識の向上に向け、HR、集会等で意識の啓発を行う。</p>	<p>(4) 遅刻指導が効果的に実施できているか。(遅刻の状況) 授業を受ける姿勢が改善されたか。(各教科担当による評価) 頭髪や服装が改善されているか。(全校集会や式典時における生徒の状況)</p> <p>(5) 交通安全意識やマナーが向上しているか。(下校指導等における生徒の状況)被害防止に向け具体的な方策がとれているか。(対策の実施状況)</p>	<p>(4) 遅刻の回数を全学年統一し、学年単位で指導した。 頭髪、服装の乱れている生徒に対して、学年指導部を中心に徹底した指導ができた。</p> <p>(5) 交通安全意識、防犯意識を向上させるために、機会あるごとに注意喚起してきた。</p>	<p>(4) 授業を受ける姿勢が教科担当によって違ってきている。授業規律を全職員に再確認し、徹底したい。 頭髪の再登校指導は徹底できてきたが、服装の乱れに対しての再登校指導も規定を含め検討しなくてはならない。</p> <p>(5) 登下校に痴漢の被害を受ける女子生徒が多い。複数にて登下校するように指導しているが、被害の数は減っていない。防犯意識を含め、徹底しなくてはならない。</p>	<p>(保護者)</p> <p>(学校評議員)</p> <p>前ページに記載</p>	<p>(学校評価)</p> <p>(改善方策等)</p> <p>前ページに記載</p>
<p><学習指導・授業改善></p> <p>(1) 学力向上へ向けて、授業や評価方法の工夫・改善の推進を行う。</p> <p>(2) 主体的な学習習慣が身に付いた生徒を育成する。</p>	<p>(1) 多展開授業のより効果的な展開方法の検討と導入を進める。 生徒による授業評価を生かした授業研究、人材育成に留意した校内研修体制の研究・構築を進める。 成績不振生徒に対する指導を充実させ効果的な指導を探究する。</p> <p>(2) 朝学習や授業をきっかけにして、家庭での積極的な学習に結びつく指導方法を研究する。</p>	<p>(1) 多展開授業の導入を行うことができたか。また、生徒による授業評価の様々な項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高いか。(生徒による授業評価の結果)</p> <p>(2) 生徒の自己評価や主体性が向上しているか。(生徒による授業評価の結果、生徒の学習状況)</p>	<p>(1) 数学・体育・芸術・外国語(英語)で多展開授業が実施できた。 生徒による授業評価のほとんどの項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が80%を越え、昨年よりも改善されている。</p> <p>(2) 生徒による授業評価の自己評価3項目で、「あてはまる」「ややあてはまる」が昨年よりやや改善されて86%となった。</p>	<p>(1) 多展開授業だけでなく、3年選択科目の授業展開など、より効果的かつ効果的な方法の検討。 授業改善のための研究・協議の機会を増やす。</p> <p>(2) 生徒の自主的・主体的な学習態度の育成に向けた全校的な取組みの研究。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組みの内容が保護者にあまり伝わっていない。 学習習慣の定着は難しい問題だが、向上しているのであれば素晴らしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多展開授業に効果があったことが伺え、取組みの成果と思われる。今後も授業体制とともに、指導法の工夫改善を図ることが求められる。 生徒による授業評価は可能な範囲で示していただきたい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多展開授業による学習効果の向上が見られている。多展開授業だけでなく、ほとんどの教科科目で授業展開の工夫により、生徒による授業評価が改善された。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善の取組みを発信するために「学校へ行こう週間」等を利用し、外部に発信する。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><キャリア教育></p> <p>(1)自分の将来について考える多様な機会を設け、生きる力や社会で役に立つ力を育成する。</p> <p>(2)「ちょっと背伸びの進路実現」を目標に、一人ひとりが希望の進路が実現できるよう情報発信や指導を行う。</p>	<p>(1) 生徒が自主的に活用できるように、進路室の整備等に努める。また、進路相談が気軽にできるよう、進路相談室を活用する。小論文対策や社会人としてのマナーについて指導の機会を持つ。生徒のニーズを把握し、それに適したガイダンスになるよう説明内容を精選する。</p> <p>(2) 進路希望を実現するため、模擬試験をより実践的な機会と位置付け、外部会場での受験をこれまで以上に勤める。高めの目標を持たせるために効果的な進路指導を実施するとともに生徒、教員へ適切な情報提供を行う。大学・短大への進学者割合が年々伸びていることを受け、今年度も、生徒の希望を重視しながら、補習や講習・朝学習などをより充実させてこの数値を伸ばせるよう努める。</p>	<p>(1)社会で役立つマナー等を身に付けられたか。(講座・ガイダンスの実施状況、進路室・進路相談室の活用状況)</p> <p>(2)生徒のニーズに適した進路指導を実施することができた。(業者テストの見直しの状況、啓発・情報提供の状況、進路状況)</p>	<p>(1) これまで以上に進路室の整理整頓を行うと同時に、赤本の充実を行うことができた。また、「新進路室」を「進路相談室」と名称変更を行うとともに、部屋内の刷新も進み、スクールカウンセラーの対応や各面談場所として有意義に使われるようになった。マナー講座を3年生対象に行うなど、各種ガイダンスの充実を図ることができた。</p> <p>(2) 模擬試験の紹介は、ごく一部にとどまってしまった。一般受験希望者やセンター試験受験者へのガイダンスを実施することによって、昨年29名だったセンター受験者が35名に増えた。また、例年よりも一般受験に挑戦する生徒が増えている。国立大学の一般推薦に挑戦する者(2名)や明治学院大の公募制で合格する者など、「ちょっと背伸び」の進路実現に向けて努力を続けている。</p>	<p>(1) さらに充実した進路室にするためには、プリンターやコピー機などが導入されると理想的である。また、生徒支援グループとタイアップして「進路相談室」の施設の充実をはかれた。今後はどのように使用していくかが課題となる。どのようなガイダンスを実施していくかは、3年間を見据えたプログラムが必要。そのためにも「総合的な学習」の位置づけが現在曖昧なので、ここから着手する必要があると考える。</p> <p>(2) 模擬試験は、外部実施と校内実施では受験費用に大きな開きがある。当然ながら校内実施の方が安く済むのだが、教員側の負担が非常に多くなるのが課題。生徒への意識改革をさらに進めていく必要がある。今後は、予備校とも情報交換しながら、最新の受験動向を入手していく必要があるかもしれない。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来を考えるためにいろいろなことを体験できるとよい。 ・保護者を対象にした進路指導に関する機会があるとよい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの進路ガイダンスや、生徒用の大学見学などがあってもよいのではないか。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの進路ガイダンスは各学年とも実施している。生徒が体験しているような「キャリアガイダンス」の保護者向けイベントができるとうれいなのかもしれない。 ・自らのキャリアを考える上で、生徒のニーズにあった進路指導がおおよそできていると考える。年々四年制大学への進学者が増えている点からも、さらに多様な進路決定への支援が必要と考える。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象のガイダンスを各学年で実施しているが、開催が平日である点や、開催告知にメール配信システムなどを利用するなど。さらに工夫する余地はあると考える。 ・2年時の東京遠足を、周辺の大学をチェックポイントとするなど、大学見学は可能かと思われる。美術陶芸コースは、そうしたイベントを休日に実施している。今後検討していく価値はあると考える。 ・生徒の将来を考え、「キャリア」という視点にとらわれず、様々な体験の機会を与えていきたいと考える。昨年度は1・2年生の夏休みに行った「インターシップ」に参加したのがのべ39件。一昨年度の8件よりも大幅に増えた。こうした機会もより生徒たちに伝えていきたいと考えている。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><地域等連携></p> <p>(1)美術陶芸コース、一般コースそれぞれの魅力や特色を中学生や地域、保護者に浸透させる。</p> <p>(2)いのちの尊重に関する教育の取組みを他校等に普及し成果を検証する。</p> <p>(3)地域や保護者、大学等と連携した活動により生徒の意欲を高める。</p>	<p>(1) 学校説明会をコース別の内容としてそれぞれの特色や魅力をよりわかりやすく伝える。ホームページの内容を改善し、中学生等が知りたい情報を掲載するよう改善する。学校の取組みを積極的にタウン紙などに情報提供する。</p> <p>(2) いのちの尊重に関する教育の取組みを学校案内やホームページに掲載する。教育活動を公開し、他校等からのフィードバックを得る。</p> <p>(3) 生徒・教職員による地域貢献活動を学校全体で幅広く展開する。保護者によるサポーター活動を広く紹介し参加を呼びかけ、充実した活動となるよう工夫する。大学等と連携し専門性の高い教育を提供する。</p>	<p>(1)各コースの特色や魅力が中学生や地域、保護者に浸透しているか。(学校説明会アンケート結果、報道の状況)</p> <p>(2)いのちの尊重に関する教育の取組みを普及できているか。(ホームページ等への掲載状況、他校等からの評価)</p> <p>(3) 地域や保護者、大学等との連携が進んでいるか。生徒の意欲が高まっているか。(地域貢献活動の実施状況、サポーター活動への参加者数、特別授業等での生徒アンケート)</p>	<p>(1) コース別の説明会を行い、特色の浸透を図った。特に第1回は初めて戸塚で行ったところ前年比30%増の参加となり、より多くの中学生等に本校の特色を伝えることができた。ホームページに「美術陶芸コースQ&A」を新設し、特色理解を図った。文部科学省編集『中等教育資料』に本校の芸術教育の取組が特集されるなど、特色ある教育が全国的に周知された。</p> <p>(2) 人権教育に関する報告書をホームページに掲載したほか、地域福祉施設と連携した取組みが、行政課の人権パンフレットに掲載されるなど、普及につながった。教育活動公開では、他校からの参加があり、協議が深まった。</p> <p>(3) 地域貢献デーを年2回開催し、地域の方と連携した地域貢献活動を行うことができたほか、地域の夏祭りへの協力や、地域の小中学生向けの陶芸教室、吹奏楽部による老人ホームでの演奏など展開できた。保護者によるサポーター活動をホームページに掲載し、参加を呼びかけた。大学教授や修復家、絵本作家等を招聘した講演会を行い、生徒の視野を広げることができた。</p>	<p>(1) 第1回説明会は予想以上に多くの来場者があり、収容しきれなかったため、回数を増やすなどの工夫が必要である。</p> <p>(2) 研究指定後も継続して人権やいのちの尊重に関する教育に取り組んでいきたい。</p> <p>(3) 地域貢献活動については、取組みについての広報をより充実させていきたい。保護者によるサポーター活動については、継続的な働きかけが必要である。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな取組みをもっと周知していくとよい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会の工夫やホームページの有効活用など、精力的な情報発信が伺える。 ・学校の取組みがタウン紙等に掲載されることはとてもよい。 ・中学校向けの学校説明会は、学校内で行うのがよいのではないか。進学先についての情報も積極的にアピールしてほしい。 ・地域での展示は交流のきっかけになるのでよい。 ・登校時にあいさつをする生徒がいてとても印象がよい。夏祭りの手伝いには感謝している。 ・いのちの尊重に関する取組みの一環として周辺地域に対する防災面での連携について考えてほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース別の説明会や各種メディア、ホームページでの情報発信などを通して、特色ある取組みは一定程度浸透してきたと考えている。 ・いのちの尊重に関する教育や地域と連携した活動について新たな取組みも取り入れて実績を重ねることができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から専門学科「美術科」と普通科の併置校として新しくスタートすることを踏まえ、新しい学校の特色について引き続き分かりやすい周知に努めたい。 ・専門学科「美術科」の教育を充実させるため、今後、いっそう多様な機関等との連携を深めていきたい。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><学校運営・学校管理></p> <p>(1) 人権に配慮した指導体制の整備と、生徒が豊かな人間関係の中で学ぶ環境づくりを推進する。</p> <p>(2) 安心・安全な学校生活の実現と、事故防止に努め信頼される校内体制の構築を進める。</p>	<p>(1)LHR・「総合的な学習の時間」を活用し、他者との対応・コミュニケーションのとり方について学ぶ機会を設定する。</p> <p>(2) 危険箇所・故障箇所について、修理・改善を速やかに行えるような教職員の協力体制を確立する。 清掃指導の徹底を図り、心地よく学べる環境づくりを推進する。 美術作品を展示した食事コーナー等の活用を図り、生徒の交流の場をつくる。 防災カードを利用した緊急時の下校体制を確立するとともに、防災教育を推進する。 グループ間の連絡調整や学校行事の精選・充実を図る。 私費会計基準に基づき教育振興費等について適正な処理を行う。</p>	<p>(1)人権教育の意義やねらいを全職員が共通理解しているか。(目標の設定状況、教職員アンケート等)</p> <p>(2)校内を安全かつ清潔に維持し、校内の備品等を大切に利用するシステムが機能しているか。 学校運営、学校行事が効率的・効果的・円滑に運営できているか。(清掃状況、非常用備品等の整備状況、点検の実施状況、教職員アンケート等) 会計処理が適正に行われているか。</p>	<p>(1)人権や命の尊重に関する教育実践として、「総合的な学習の時間」等を活用し、拉致問題に関する映画「ただいまの声を聞くために」を1学年生徒全員で鑑賞し、94%の生徒から理解を深めたとのアンケート回答を得た。 教職員を対象に「性的マイノリティについて考える」と題した研修会を実施し、理解を深めた等、実施内容に対する肯定的なアンケート回答を得た。</p> <p>(2) 修繕依頼の体制を整えたことで、速やかに処理できた。 清掃用具に不足が生じないよう、随時補充した。 非常用備品はより利用しやすいよう内容を吟味し、価格を調整した。 年間行事、月間行事等、授業時間の確保を優先しながら調整を行った。 教育振興費の会計は適正的確な処理を行った。</p>	<p>(1)「総合的な学習の時間」全体の中で、人権教育に関わる時間をどのくらいにするのか、またどのような位置づけにしていけるかを学校全体で考える必要がある。</p> <p>(2) 高校改革に伴う授業時間の確保等を考慮していく中で、学校行事をどう精選していくかをグループ間で考える必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権について、いろいろな事例を通して自ら考えられるような取組みが必要。 ・シンデレラ階段の修理など細かい対応ができています。教室の片付けなども習慣づけたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職が地域の会合に積極的に参加していることや、学校評価活動を組織的・計画的に実施していることなどから努力している様子が伺える。 	<p>(学校評価)</p> <p>(1)「人権」を「拉致問題」「性的マイノリティ」等、幅広く捉えて問題提起することで、あらゆる場面で「人権」を考える意識付けをすることができたと考える。</p> <p>(2)築30年を越え、あらゆる場所に修繕を必要とするが、事務との連絡を密にすることで、迅速な対応ができたと考える。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>(2)教室等の片付けは担任と生徒の関係もあると思うが、片付けを自然に意識できる環境づくりも必要であろう。</p>